

木のみ、木のまま

有馬 孝禮

もくじ

第1章

日本住宅・木材技術センターの40年に思うこと

「住宅と木材」 木材・木造余録 (2017. Vol.40.No.467~Vol.40.No.476)

公益財団法人 日本住宅・木材技術センター

- (1) 構造材料への胎動
- (2) 木造から木質構造への流れ
- (3) 変化と時間差
- (4) 工業化とプレカット
- (5) 在来工法木造住宅の合理化
- (6) 昭和56年(1981年)建築基準法施行令改正前後
- (7) 木造、木材利用の「動」なる展開
- (8) 木材利用の多様な展開
- (9) 3階建て木造住宅の大きな変貌
- (10) 区切りを経て、その次へ

第2章

「ちょっと気になる、木の話」

日刊木材新聞 (2014年5月21日号～2015年6月17日号)

株式会社 日刊木材新聞社

- (1) 木材利用の寵児となるかCLT
- (2) 「板類」の多様な利用
- (3) 常識の見方を変える
- (4) 目が粗い材は弱い？
- (5) 科学的に製品用途を判定
- (6) 燃料はバイオマス資源の最終段階
- (7) バイオ、「熱」から「電」で良いか
- (8) 木を燃やすにはエネルギーが必要
- (9) なぜ、木質エネルギーなのか
- (10) 「木の良さ」と現実
- (11) 思いや感性は十人十色 (マウス実験 1)
- (12) 材質変われば成長も変わる (マウス実験 2)
- (13) 生存率高い木製で育ったマウス (マウス実験 3)
- (14) 木の見えない木造
- (15) 木のように見える材料と木材
- (16) 木の長所を生かし、短所を技術で補完
- (17) 木現しの木造
- (18) 「動から静へ」「静から動へ」
- (19) 熱の伝わり方の違い
- (20) 居住空間の湿度環境
- (21) 木材乾燥に伴う表面割れ
- (22) 木材利用を通して地方創生
- (23) 木構造建築の資材供給のあり方
- (24) 地方創生における生産地と消費地
- (25) 木材利用と資源再生産の連携

第3章

「木の目」「続・木の目」

都城地区木材青壮年会 会報誌 (2011年11月～2013年3月)

「木の目」

- (1) 単純にものに置き換えられる風潮
- (2) 年輪
- (3) 共存・共生
- (4) そもそも本来の目的とは
- (5) 生物体としての認識
- (6) 規制緩和とメカノソープティブ変形
- (7) 薄れる記憶
- (8) 地域活性の原点
- (9) 変わらなくちゃ 自立・自律とLCA
- (10) 当たり前のことと循環型社会
- (11) 森と木材そして都市
- (12) 風格ある木造住宅 増改築と相続税
- (13) 中古住宅 循環するための責任
- (14) 持続可能へTPOを支える勇気と信頼関係
- (15) 古くて良いものボロいもの
- (16) リストラと相続税
- (17) 若年と熟年
- (18) 百年住宅
- (19) 五感、さて次は

「続・木の目」

- (20) 木材利用に関する多様な期待に対応する
- (21) 自立・自律
- (22) CLT（直交集成板）の動きと厚い板
- (23) 伊勢神宮の式年遷宮とバイオマス資源の更新
- (24) 情報の質と活かし方

第4章

「杉・再考」

「グリーンパワー」2006年1月号～12月号

公益財団法人 森林文化協会

- (1) 日本の樹
- (2) 消費が生産を生む
- (3) スギ利用技術革新の基本は強度等級区分
- (4) エコロジーはエコノミー
- (5) 柔らかさと暖かさ
- (6) 人の生活を包む生物資源
- (7) 「石の文化」と「木の文化」
- (8) 利用による国土保全
- (9) 「山いじり」で知る苗一本の重み
- (10) スギの利用拡大 まず常識の見方を変える
- (11) 「使おう」と思うから可能になる
- (12) スギの文化 それは平和

資料. 1

木材工業における国際化と地域

木材工業 Vol.63 No.11 2008年
公益社団法人 日本木材加工技術協会

1. 木材産業と平和
2. 国際化の波の中で泳ぎ続けてきた木材産業
3. 木材資源あつての木材産業 地域との関わり合い

資料. 2

環境保全と資源持続性の駆動力としての木材利用

木材工業新聞 2011 新年特集号 1月6日 6767号
株式会社 木材工業新聞社

1. 「低炭素社会」という用語と二つの法案
2. 地球温暖化防止条約「京都議定書」の第一約束機関における
森林・木材の位置
3. 森林・木材利用による二酸化炭素の削減の3効果
4. 炭素ストック「C表示」と伐採木材の扱い
5. 国際化の中での、利用による資源持続性
6. 資源戦争の中の資源生産
「消費が消費を生む」と「消費が生産を生む」
7. 地球温暖化防止対策の、省エネルギーとバイオエネルギー
8. 改めて公共建築物における木材利用の展開
まず、常識の見方を変える

資料. 3

最近の出来事から次を思う

Journal of Timber Engineering 104 Vol.24 No.6 2011.12

木質構造研究会

1. 東日本大震災に関すること
2. きたるべき「動の時代」に向けて
3. 新燃岳、口蹄疫と山いじり

資料. 4

閉塞感を問う

Journal of Timber Engineering 115 Vol.26 No.5 2013.09

木質構造研究会

1. はじめに
2. なんとなく漂う閉塞的な雰囲気
3. 「決める」と「決まる」の混乱
4. 「決める」ことの基本条件
5. 性能表示制度の機能不全
6. 軽視される被害調査の評価結果
7. 構造計算の守備範囲
8. きたるべき「動の時代」において

資料. 5

木材利用はどのように変わったか

木造住宅、木造建造物の変遷との関わり

本稿の一部は、以下で記載した

- ・ 山林 No.1661 2022年10月 公益社団法人 大日本山林会
- ・ 木材工業 Vol.78 No.7・9・10 2023年 公益社団法人 日本木材加工技術協会

1. はじめに
2. 昭和から平成に 木材利用は平和の象徴
3. 戦後から高度成長期
4. 枠組壁工法のオープン化がもたらしたものの
5. プレカットが木材の流れを変えた
6. 木構造から木質構造へ
7. 阪神・淡路大震災、東日本大震災からの教訓
8. CLTなどによる国産材の利用展開
9. 木造建築は「都市の森林」、平和の象徴
10. 「空間」と「時間」の連携

資料. 6

木造・木材利用推進の流れの中で

C L T（直交集成板）などの課題・展開

建築コスト研究 No.96 2017年1月
一般財団法人 建築コスト管理システム研究所

1. 大きなうねりの中の木材
2. 木造建築は「もう一つの森林」、次の世代へ「生産を生む消費」
3. C L T（直交集成板）等による国産材利用拡大への課題

資料. 7

建築における木材利用促進の視点

新たな資源循環社会へ向けて

建材試験情報 Vol.51 2015年1月
一般財団法人 建材試験センター

1. はじめに
2. 森林・木材利用による二酸化炭素の削減の3効果と
第2約束期間への重要な展開
3. 木材資源の持続性に対する利用展開の連携
4. 「3R/4R」から5Rへ
5. 新たな木質構造への展開
6. 木材なれど木材にあらず、されど木材

資料. 8

日本の森林と地球環境保全に関わる家作りの連携

チルチンびと 別冊 63 2021年10月号
株式会社 風土社

資料. 9

カーボンニュートラルと木造建築の関係

建築技術 No.886 2023年11月
株式会社 建築技術

1. 二酸化炭素放出抑制と炭素ストック
2. 木材・木質材料の資材としての特異性
3. 建築分野における木造建築物

資料. 1 0

宮崎県の木材への思いと期待

50年のあゆみ 宮崎県木連

宮崎県木材協同組合連合会 2014年

1. 宮崎県木材協同組合連合会 50周年
2. 高度成長期と木材の「静の時代」
3. 木材利用技術への胎動「動の時代」
4. 木材利用への新たな認識「静の時代」
5. 木材利用の次の「動の時代」へ
6. 感謝にかえて